

## くにみまち 福島県国見町行政視察研修

災害時応援協定を平成25年5月28日に、友好交流協定を平成27年8月21日に提携した国見町の国見町役場・国見町の道の駅「国見あつかしの郷」及び東日本大震災の被災地の現状等について、5月17日から19日まで視察研修を行いました。

役場庁舎は、東日本大震災（震度6強）で大きな被害を受け、行政サービスが出来なくなり、復旧・復興に向けた町のシンボルとして新庁舎が、平成27年5月7日に開庁しました。

新庁舎の建設工事経過・コンセプト等について説明を受けました。コンセプトには、「防災拠点機能を備えた庁舎」「環境のまちにふさわしい庁舎」などがあり、庁舎には非常用発電機・太陽光パネル・蓄電池・木質ペレットボイラー・雨水をトイレ洗浄水にする設備等が設けられています。また3階の議場も机が可動式でレイアウト変更ができ、多目的な用途に活用できます。



雨水をトイレ洗浄水に



机が可動式の議場

今年5月3日にグランドオープンした道の駅「国見あつかしの郷」も視察し、この道の駅は復興のシンボルとしての役目を担い、ひと・もの・食・歴史などの宝物が集う「交流の場」として利用していく施設であると説明を受けました。施設内には、こども木育広場・宿泊施設・研修室・歴史産業情報コーナーなどがあります。



道の駅「国見あつかしの郷」



こども木育広場

東日本大震災の時に、災害派遣車両の燃料補給基地として活動した陸上自衛隊 多賀城駐屯地を訪問し、震災直後の状況とその後の対応について話を伺い、隊員の案内で被災地に行き、現在までの復興状況を、震災時に撮影した写真を見ながら説明を受けました。



駐屯地で震災の対応について説明を受ける



車内での説明

※ 道の駅名は、地元で愛されている「<sup>あつかし</sup>阿津賀志山」から命名されています。